

平成 20 年度市民意識調査結果（概要版）

市民の皆さまの意識やご要望を的確に把握し、今後の市政に反映させるため、「市民意識調査」を実施しました。調査結果がまとまりましたので、お知らせします。

今回の調査では、定住意識や市政に関する基礎事項のほか、将来のまちづくり計画や男女共同参画プランの策定、都市環境などの課題についても調査しました。今後の市政推進の参考とさせていただくとともに、諸計画立案の貴重な基礎資料として活用します。

平成 20 年度市民意識調査結果（概要版）

調査の概要

調査結果の概要

- 1、定住意識
- 2、生活環境、まちづくり
- 3、地域活動
- 4、市民参加、広報、情報化
- 5、健康づくり
- 6、自由時間（余暇）
- 7、環境問題
- 8、防災
- 9、都市景観、都市環境
- 10、男女共同参画

調査の概要

1、調査内容

前回の調査（平成 16 年 11 月実施）に継続して、「定住意識」「生活環境」「環境問題」「男女共同参画」などに加え、「都市景観・都市環境」を加えた 30 項目について、設問を行いました。

2、調査方法

平成 20 年 11 月 1 日現在、市内在住の 18 歳以上の住民基本台帳、外国人登録原票から無作為に男女 2,500 人を対象に、11 月 27 日から 12 月 24 日までの間、郵送調査法（回答者は無記名）により行いました。有効回収数は、1,219、回収率は 48.8%となっています。

調査結果の概要

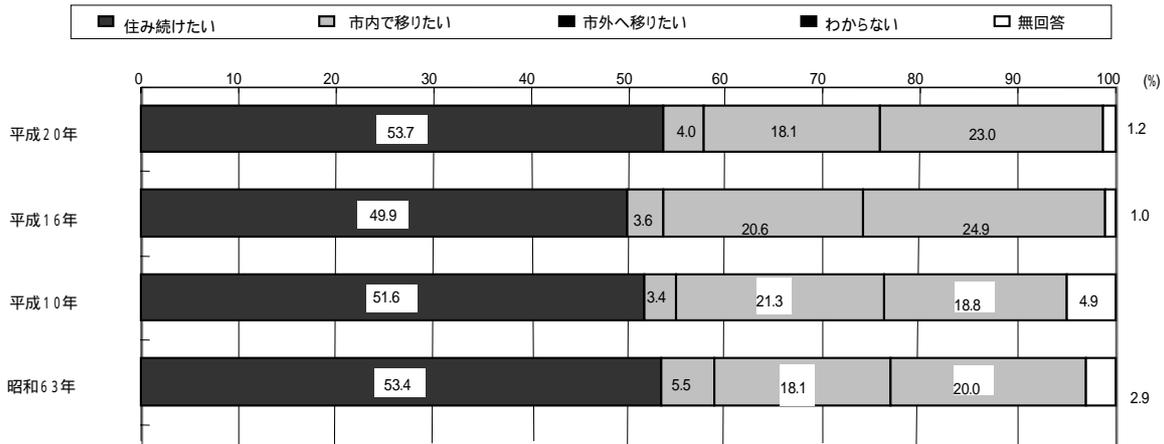
1、定住意識

定住意識を聞いた結果最も多かったのは、「住み続けたい」（53.7%）であった。過去の調査結果と比較すると、減少傾向にあった「住み続けたい」は増加しています。

今の場所に住み続けたい理由を聞いた結果最も多かったのは、「自分の家や土地があるから」（47.1%）でした。「通勤・通学などが便利だから」、「人間関係が良いから」、「自分が生まれ育ったところだから」は、減少傾向になっています。

総合的なまわりの環境を聞いた結果から出された「住みやすさ」は 44.4 ポイントで、前回調査（37.3%）から増加しています。

グラフ あなたはこれからも今の場所に住み続けたいですか



2、生活環境、まちづくり

身の回りの環境で良い評価だったのは、「飲み水」、「日当たりや風通しなど」、「台所・風呂などの排水処理」、「周囲の自然環境」の4項目で、反対に-30%を下回る悪い評価だった項目は、「騒音・大気汚染など」、「道路の整備状況」、「文化・スポーツ・娯楽などの施設」の3項目でした。

今後、市が力を入れるべきこととして、「保健・医療の充実」、「航空機騒音対策」、「高齢者・心身障害者福祉など福祉の充実」、「防犯・交通安全対策の推進」、「ごみ・公害など環境対策」の順となっています。

	順位	平成20年度調査	平成10年度調査
満足度が高い	1位	飲み水	飲み水
	2位	日当たりや風通しなど	日当たりや風通しなど
	3位	日常の買い物	日常の買い物
今後力を入れるべきこと	1位	保健・医療対策の充実	航空機騒音対策
	2位	航空機騒音対策	上水道の水質保全・安定供給
	3位	高齢者・心身障害者福祉など福祉の充実	ごみ・公害など環境対策

3、地域活動

今後の近所づきあいで最も多かったのは、「世間話をする程度の気軽なつきあいをしたい」(49.5%)でした。過去の結果と比較すると、「お互いに助け合うなど親密なつきあいをしたい」、「世間話をする程度の気軽なつきあいをしたい」は前回より比率が高くなっており、近所づきあいの重要性が見直されている傾向がみられます。

実際に参加している団体・活動を聞いた結果、多かったのは、「自治会」(43.2%)で、「特に活動していない」(45.5%)も多くなっています。

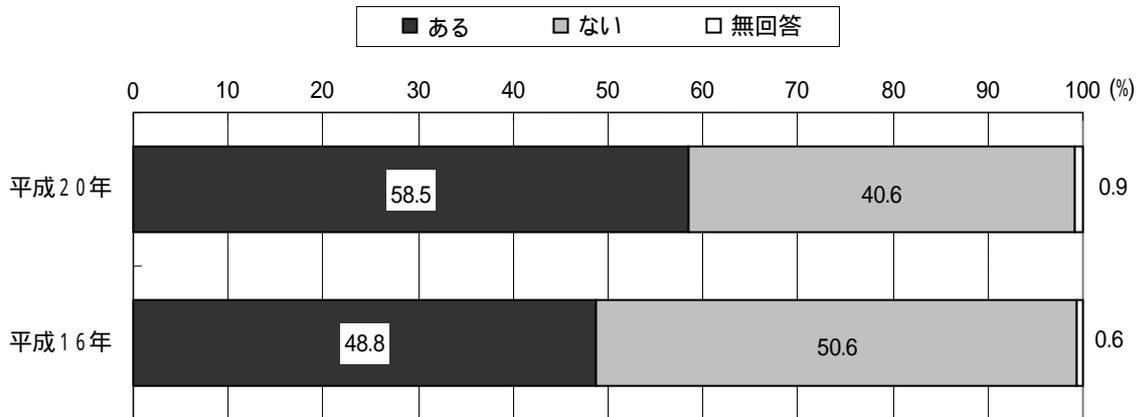
4、市民参加、広報、情報化

要求や問題を市政に反映させる方法として最も多かったのは、「自分で直接市役所に連絡する」(39.0%)で、過去の調査と比較すると、「自分で直接市役所に連絡する」の比率が年々高くなっています。

高度情報化社会において、市からのお知らせの伝達方法として、「広報ざま」以外の最も多かったのは、「ケーブルテレビ」(32.3%)、「録音テープによる電話サービス」(22.3%)と続いています。また、日常の場面でインタ

ーネットを「利用する」と回答した人のうち、座間市のホームページの閲覧経験を聞いた結果、「ある」と回答した人は58.5%でした。

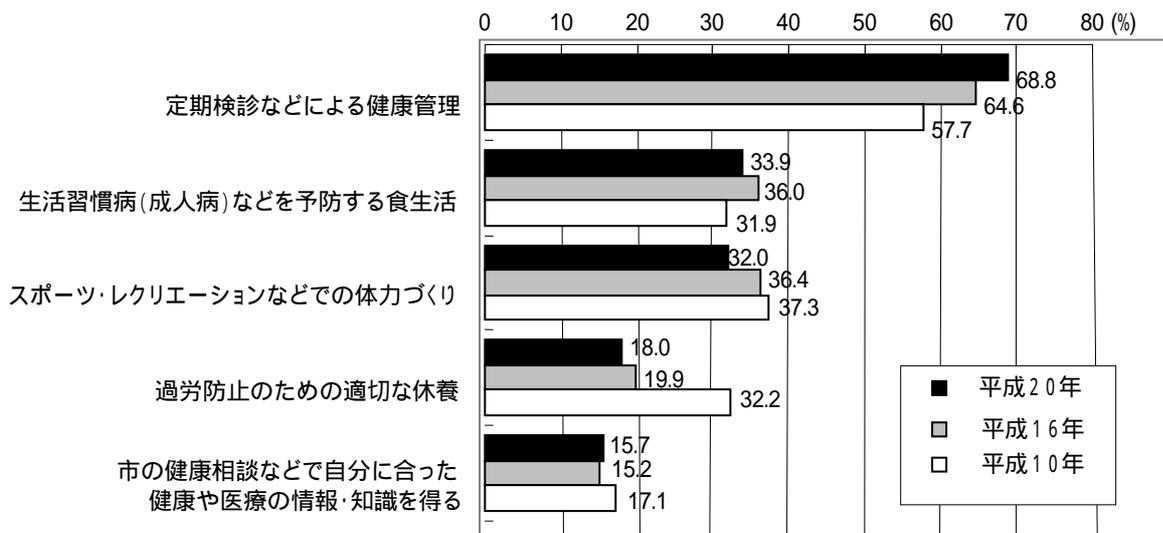
グラフ 座間市のホームページの閲覧経験



5、健康づくり

健康づくりのために重要だと思うことについて多かったのは、「定期検診などによる健康管理」(68.8%)でした。次いで「生活習慣病(成人病)などを予防する食生活」(33.9%)、「スポーツ・レクリエーションなどでの体力づくり」(32.0%)でした。

グラフ 健康づくりのために必要だと思うこと



6、自由時間(余暇)

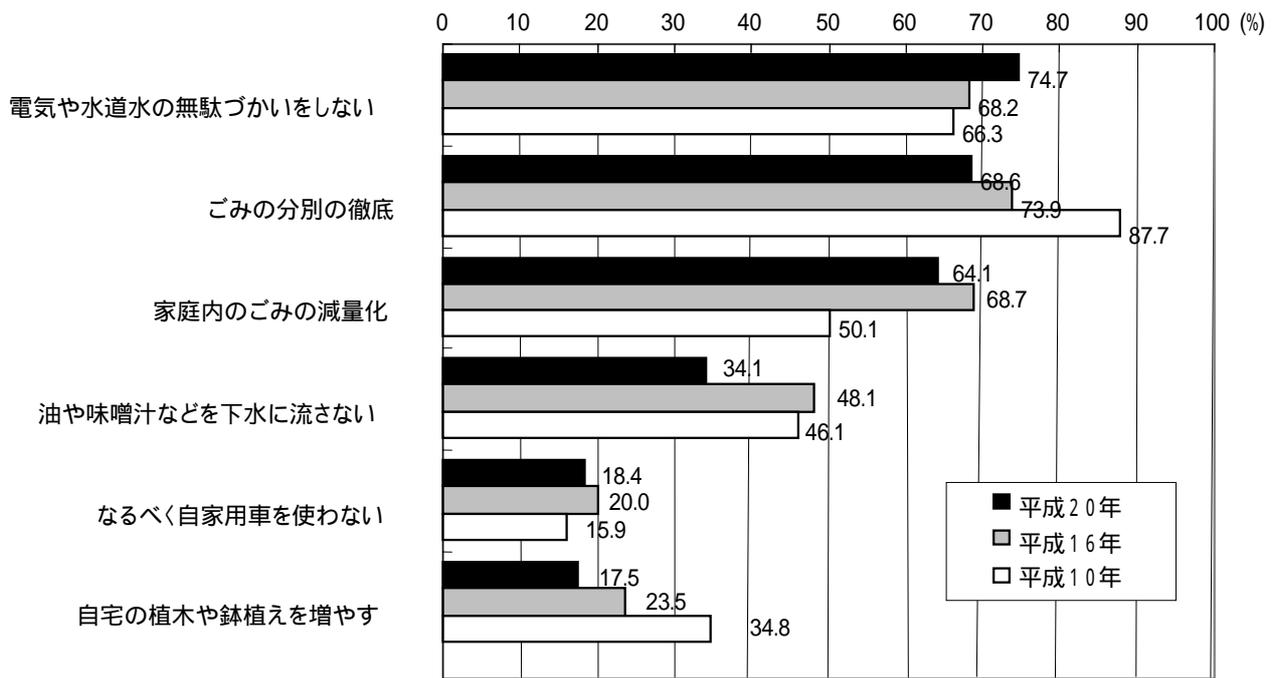
自由時間(余暇)を過ごすために必要な施策・施設を聞いた結果最も多かったのは、「趣味・教養講座の開催」(42.7%)であり、次いで、「スポーツ施設の整備」(33.1%)、「公民館・コミュニティセンターなど学習・文化活動の場の提供」(25.9%)となっています。

7、環境問題

一番気になる環境問題を聞いた結果、最も多かったのは、「航空機騒音」(46.4%)でした。「不法投棄」、「地球温暖化」が今回から調査項目に加わった影響で、前回の63.3%から17ポイントほど低くなっています。

環境のため実行したいこととして多かったのは、「電気や水道水の無駄づかいをしない」(74.7%)、次いで、「ごみの分別の徹底」(68.6%)、「家庭内のごみの減量化」(64.1%)となっています。

グラフ あなたが環境のために今後も気をつけて実行したいことは

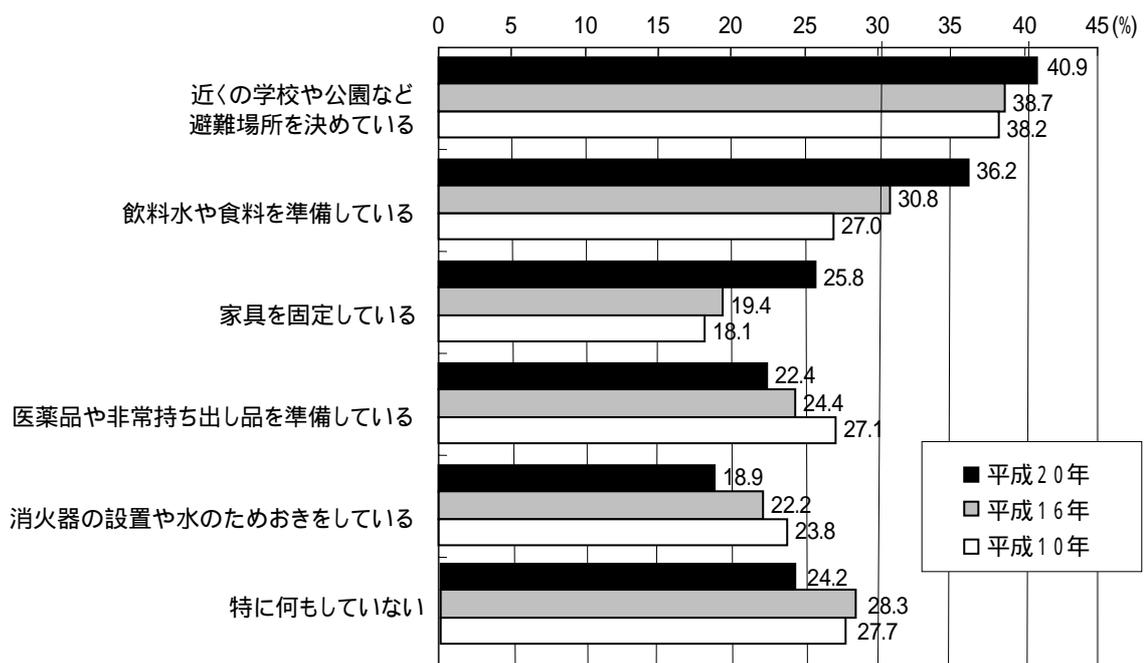


8、防災

地震や火災に備えてとっている対策として多かったのは、「近くの学校や公園など避難場所を決めている」(40.9%)、「飲料水や食料を準備している」(36.2%)でした。過去の調査と比較すると、何らかの備えをしているという比率が高くなっていますが、「特に何もしていない」(24.2%)も、全体的にみると高い比率となっています。

また、防災対策として力を入れた方がいいものとして多いのは、「正確な情報を伝達する体制づくり」(34.7%)でした。次いで、「飲料水、食料などの確保」、「市民の防災意識の高揚」となっています。

グラフ あなたの家では地震や火災に対してどのような対策をとっていますか



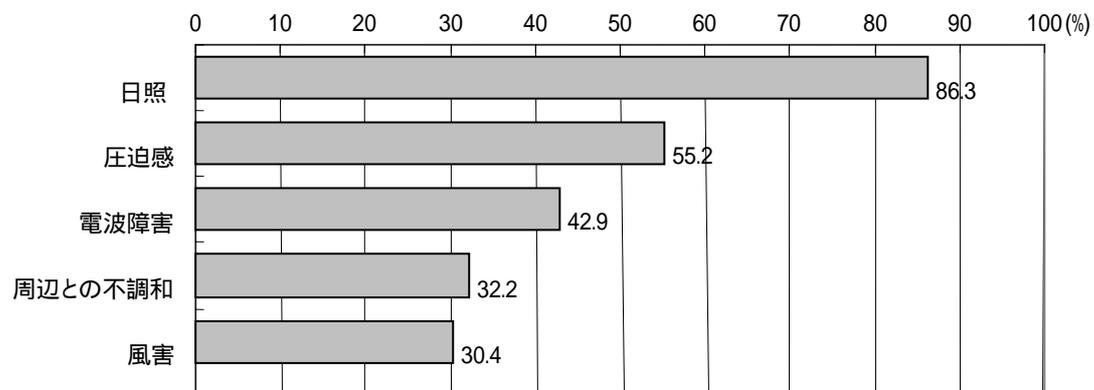
9、都市景観、都市環境

良好な都市景観・都市環境を形成するのに必要なこととして多いのは、「緑地の保全」(47.8%)、次いで、「建築物の高さ規制の導入」(17.9%)、「身近な地区を対象としたルールづくり」(9.4%)となっています。

住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合の感じ方について多かったのは、「大変気になる」(49.7%)、「気になる」(33.7%)でした。

中高層建築物の具体的な問題点として多いのは、「日照」(86.3%)で、「圧迫感」(55.2%)、「電波障害」(42.9%)、「周辺との不調和」(32.2%)、「風害」(30.4%)と続いていますまた、建築物の高さ制限の必要性については、「どの地域でも建つ可能性があるため市街地全域に必要である」(61.6%)、次いで、「どちらともいえない」(18.0%)、「わからない」(10.4%)の順に高くなっています。

グラフ 中高層建築物の具体的な問題点は何だと思えますか。



10、男女共同参画

「男は仕事、女は家庭」といった考えについて聞いた結果最も多かったのは、「どちらかといえば反対」(31.7%)であった。次いで、「反対」(26.3%)となっており、すべての性別・年齢において、反対派が賛成派を上回っています。

「反対」理由として多いのは、「従来の経験や習慣では、おしはかれない状況となっているから」(32.7%)でしたが、過去の調査結果と比較すると、「現在、仕事の面でも活躍している女性が多くなったから」、「生まれつき男女の役割は決められているものではないから」は前回(平成16年)の調査より比率が高くなっています。

男性の育児休業制度取得を促す方法として多いのは、「職場での理解が得られるようにする」(54.3%)、「育児休業を利用しても収入減にならない制度の策定」(35.9%)、「男性が育児に参加することに対する周囲の偏見をなくす」(27.5%)、「後々、待遇面で不利にならないようにする」(25.0%)と続き、職場での育児休業制度の整備や理解が重要なポイントとなっていることがわかります。

家族の介護は誰が行うべきかについては、「男女にかかわらず家族が担うべき」(58.2%)、次いで、「ホームヘルパーや施設入所などの福祉サービスを利用すべき」(31.3%)の順に高い比率となっています。

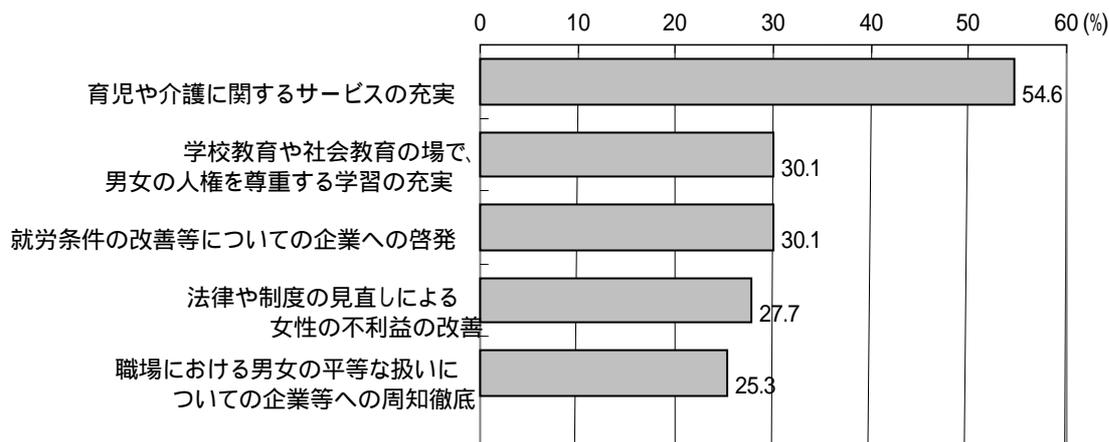
ドメスティック・バイオレンスの相談窓口があることを「知らない」(67.3%)がもっとも多く、70%近くが「知らない」と回答しており、相談窓口の認知度は低いという結果が出ました。

パートナー(配偶者、恋人)から受けたドメスティックバイオレンスの経験については、「まったくない」が最も多いものの、暴言を吐くなどの心理的暴力を受けた経験がある人の比率が他と比べて高くなっています。また、性

別でみると、男性よりも女性の方が被害にあっている比率が高くなっています。

男女共同参画社会を実現していくために必要なこととして多かったのは、「育児や介護に関するサービスの充実」(54.6%)で、「学校教育や社会教育の場で、男女の人権を尊重する学習の充実」(30.1%)、「就労条件の改善等についての企業への啓発」(30.1%)、「法律や制度の見直しによる女性の不利益の改善」(27.7%)とつづいています。

グラフ 男女共同参画社会を実現していくために、あなたは行政に対して望むことは



11、自由意見

設問の最後として、地域または全体のまちづくりに関する自由意見もいただきました。意見総数は、1,290件でまちづくりに関しては、駅周辺の整備をしてほしい、医療・福祉に関する意見では、医療機関の充実を望む意見や、また、道路整備、航空機騒音の解消など、多くの貴重なご意見をいただきました。